

# 第四学年 国語科の実践

- 1 単元名 人物の心の動きを読もう  
「ごんぎつね」(新美南吉 作)
- 2 単元目標 関) 叙述から想像を膨らませて読み、読みとったことを進んで話し合おうとする。  
読) 叙述や情景描写をもとに、想像しながら登場人物の心情を読むことができる。  
読) 課題についての自分の考えをまとめ、一人ひとりの感じ方の違いに気づき、読み取った内容について自分の考えを深めることができる。
- 3 「ひびき合う子どもたち」をめざすための指導の工夫  
テーマ「ひびき合う三の丸の子どもたち」  
研究課題…切実な問題意識をもち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成  
手立て …子どもの「切実な問題」を見とった授業づくり  
豊かな言語活動のできる子どもを育てる

## (1) 単元と指導について

### ①教材文について

本教材「ごんぎつね」は、一人ぼっちのこぎつねごんと、兵十との心のすれ違いが、美しい情景描写とともに描かれた作品である。

兵十のうなぎを軽い気持ちのいたずらから奪ってしまうごん。その後、兵十の母親の葬式を目の当たりにする。一人ぼっちになった兵十のさみしげな姿と、自分の境遇を重ね合わせる。いたずらしたことを後悔し、ごんは兵十につぐないを始める。

ごんは、心の底で、くりや松たけを届けているのは、自分だということを気付いてほしい。もしかしたら、気づくかもしれないという僅かな期待をもって、兵十と加助のやりとりに耳を傾けるが、その思いはかなわない。結局、兵十は最後のシーンで、ごんを撃つまで、ごんに対してある種の恨みを持ち続けている。

軽い気持ちのいたずらも、他人にとっては、重大な意味を持ったり、恨みを抱かせたりする。また、それに対しての償いが、時として相手に伝わらないこともある。

### ②指導について

○情景・心理描写を叙述に即して想像して読むために

本教材は、「からっと晴れて」「ひがん花がふみ折られていました」「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました」など、情景描写が、ごんや兵十の心情を表している部分が多くある。事前にそのことを指導しておき、登場人物の心理状態を、情景描写と関連付けて考えられるようにしたい。

単元を通じ、読み深める視点(課題)に関しては、子どもたちの感想や疑問を核にし、教師の想いを絡めながら設定していく。感想や疑問は、次のような手順で吸い上げる。

- 1 初発の感想を書く(大まかな課題をつかむ)
- 2 本文へのサイドラインを引き、コメント(思った事)を書き込む
- 3 サイドラインと自分の考えに関してグループで交流しながら読み通す
- 4 グループで深まった感想や、解決できなかった疑問に関して、全体で交流をする

「2」のサイドラインを引く視点は、「心が動いたところ(うれしい、悲しい、好きなど)」と「よく分からない(疑問)」の二点。その他にも、自分なりの視点でサイドラインを引くこともできるようにする。また、サイドラインには、必ずコメント(思った事)を付けるようにする。

「3」のグループ交流では、サイドラインと自分の考えを交流しながら全文を読み通し、共感、解決しながら、全体交流で発表するものを絞り込んでいく。絞る視点は、「グループ内の複数人が心を動かされたところ」と「グループ内で解決できなかった疑問」の二点。グループ内の役割の固定化を防ぐために、適時、メンバーのシャッフルを行う。

「4」の全体交流では、グループ交流を通じて絞り込んだサイドラインを発表し、全体で共感したり、疑問を解決していったりする課題を設定する。設定された課題を全体で読み深めていく。児童から出された意見は、黒板掲示用の本文コピーに書き込み、叙述と意見、意見と意見の相関を視覚的に見えるようにしていく。

基本は前述のように、児童から出された感想や疑問を核として課題を設定していくが、本教材文を読み深める上で、指導者側として外したくない課題を4点設定した。学習を進める中で、児童側から同様、または類似の課題が出た場合は、それを拾い、広げていくが、児童側から出ない場合は、指導者側から投げかけようと考え

えている。

また、全体交流の実際においては、一人考え、交流の時間を十分に取り、自分なりの考えをしっかりと確定して全体発表に向かわせたい。発言は、児童全員対教師の授業スタイルにこだわらず、適宜、隣同士や周辺児童との相談を入れるなどしたい。指名の仕方に関しても、挙手発言だけでなく、挙手なしの意図的指名なども取り入れていきたい。

#### 教師の読みとして、外したくない課題

- ・ごんは、どのようなきつねか。→単元を通じて追っていく課題
- ・ごんがいたずらを止めたのはなぜ（これまでのいたずらと何が違う？）→第2・3場面
- ・ごんはなぜ、兵十と加助についていったのか。→4・5場面
- ・なぜ「引き合わない」のに、翌日もつぐないを続けたのか→5・6場面
- ・天国で（撃たれた）ごんは、うれしい？うらんでる？ →5・6場面

#### 児童が出すと予想される課題

- ・ごんは、根は優しい？だとしたらなぜいたずらばかりする？
- ・兵十がびくを置いて川上に行ってしまったのはなぜ？何しに？
- ・いたずらを止めたのはなぜだろう。
- ・兵十は何も、銃でうたなくてもいいと思う。
- ・最後、兵十はどう思っただろう。
- ・最後、ごんはどう思っただろう。

物語全体を通じ、一人ぼっちであるが故、いたずらを繰り返したり、同じ一人ぼっちの兵十に自分を重ね合わせたりするごんの人物像や、くりや松たけを置いているのは自分だと言いだせず、微妙な距離を保つごん的心情を感じさせたい。そこで、ごんの場面ごとの人物像を追っていけるように、ノートにごんの人物像を書き込む欄を作り、各場面におけるごんのイメージや人物像を書き込めるようにしていく。本時の学習を経たうえでのごんのイメージについて書くようにしたい。

また、最終6場面では、兵十の心情について、前半と後半に分けて考えることで、兵十の心情の劇的な変化を感じさせたい。

### ③子どもの「切実な課題」を見取った授業づくりについて

物語文を読み深めるうえでのひびき合いは、意見交換、交流、話し合いを通じた、児童相互の共感や、疑問の解決にあると考えている。友だちと意見を交わすことで、叙述に基づいた想像が膨らんだり、自分の意見の理由付けが増えたりするなど、一人読みでは到達できない、深い読みに近づくことができるように思う。

そこで、児童相互の意見交換の場を、小グループから全体まで、しっかりと時間を確保していこうと思う。

サイドラインを引いて、自分なりの小課題を持った後は、グループ交流しながら教材文全体を読み通す。子どもたち主体で、共感と疑問の解決を行っていくが、それによって、ある程度の読み深めと、登場人物の心情に深く関わらないような周辺課題の解決が図れると考える。

グループで多くの人が共感したものと、解決しきれなかった疑問に関しては、全体交流で取り上げるようにする。子ども主体で十分に意見交流した結果残った課題なので、「どうしても解決できなかった」「解決したい」という思いを引き出せるのではないかと考える。

授業の実際においては、例えば「ごんが兵十と加助の後をついていくのはなぜか？」という課題で、単に想像で「友達になりたいから」と考える児童もいるだろうし、「会話に興味がある」と考える児童もいるだろう。「どうして?」「どこに書いてある?」などと問いかけ、自分の意見に、叙述に基づいた理由を考えさせる。ペア交流から全体発表までの流れの中で、叙述に基づいた想像が膨らんだり、自分の意見に対する理由付けが増えたりすることが、ひびき合いだと捉える。

ごんに対するイメージに関しては、いたずらを繰り返すごんに、自分の姿を重ね合わせる児童が数名いそうである。初発の感想を取り、自分と同一視する児童がいた際は、ごんの人物像を、「いたずら者の悪いきつね」としてスタートするのは避けたい。いたずらする理由を問いかけ、物語全体を通じて人物像を捉えさせたい。

## 4 単元指導計画（全13時間扱い）

次	時	学 習 活 動	評価基準と評価方法
一	1 2	◆学習計画を立てる ●全体の大まかな学習の流れを知る。 ●全文通読、初発の感想を持つ。 ●感想を交流し、大まかな課題をつかむ ●難解語句、難読漢字の確認	関) 物語に興味を持って読み、感想を持つことができる。【ノート】

二	3 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「ごんぎつね」を共感・疑問の解決をしながら、グループで読み通す</li> <li>●情景描写が心理描写となる場合があることを知る</li> <li>●メンバーをシャッフルしながら、グループ読みをする</li> </ul>	関) サイドラインを引いた文に関して、グループ内の友だちと共感したり疑問を解決しようとしたりする【観察】
三	7 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「ごんぎつね」をグループや全体で読む</li> <li>●グループで多くの人が共感したところ、解決できなかった疑問を出し合い、全体読みの課題を設定する。</li> <li>●場面1～2を読み深める <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童から出された課題</li> <li>○指定課題1「ごんはどんなきつねか？」 (物語全体を通じた課題となる)</li> </ul> </li> <li>◎場面3～4を読み深める(本時) <ul style="list-style-type: none"> <li>○指定課題2「ごんがいたずらをしなくなったのはなぜ？」</li> <li>○指定課題3「ごんはなぜ、兵十・加助についていったのか？」</li> </ul> </li> <li>●場面5～6を読み深める <ul style="list-style-type: none"> <li>○指定課題4「なぜ『引き合わない』のに続けるか？」</li> <li>○指定課題5「撃たれたごんは、喜んでる？恨んでる？」</li> </ul> </li> </ul>	読) 課題について、ごんの心情に寄り添い、また叙述に即しながら、自分なりの読み深めをする。【発言・観察・ノート】
四	11 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆終わりの感想</li> <li>●全体での読み深めを終えたうえでの感想 感想の視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残った場面</li> <li>・交流を通じて深まった、変わった</li> <li>・自分流の続き</li> <li>・アガーストリー(あの時こうだったら、全員がハッピーだった)</li> </ul> </li> </ul>	読) 登場人物の心情の寄り添い、また叙述に即した感想を持ったり想像をしたりして、まとめの作品を書く【ノート】

## 5 本時について

### (1) 本時目標

叙述や情景描写をもとに、想像しながら読み、個々の感じ取った内容を交流することを通して、加助と兵十についていくごんの心情を読みとることができる。

### (2) 本時の指導について

主課題は「ごんが兵十と加助についていくのはなぜか」であるが、副課題として、「償いに松たけを加える理由」を考える。ここで、いわし屋のいわしを盗んで償うという衝動的な償いで、かえって兵十を傷つけたことを考えさせたい。それによって償う気持ちが強まる。だからこそ、自分がやっていることに気付いてほしい。だけどこれまでいたずらをしてきたので言いだせない、という、ごんの微妙な心情を読み取らせたい。

次時以降、二人の会話は、神様がやっていることになってしまう。期待と裏腹な結果になりながら、償いを続ける心情の読み取りへとつながることになる。

### (3) 本時展開(10/13)

学 習 活 動	●指導上の留意点と評価
1 前時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまでの物語の流れを想起させる。 軽い気持ちのいたずらで、兵十にひどいことをしてしまう。つぐないをしようと、いわしを盗んで兵十の家へ投げ込むが、兵十はいわし屋に犯人扱いされて、なぐられてしまう。</li> </ul>

## 2 全体解決

課題1 「どうして『次の日も、その次の日も』くりを持っていくのか。松たけを加えるのはどういう気持ちからか。」

※ノートに考えを書く→交流→全体発表

- ・ごんのせいで兵十がいわし屋にぶんなぐられた→つぐなう気持ちが強まった
- ・「かわいそうに兵十…」→つぐないを続けたいと思うようになった
- ・松たけを加えた→それだけ兵十やのお母さんに対して申し訳ない思いが強い？
- ・想像→友だちになりたい

課題2 「ごんが兵十と加助についていくのはなぜか」

※ノートに考えを書く→交流→全体発表

- ・いたずらしてきたから→見つかったら殺されちゃうかもしれないのに
- ・自分が償っているから→会話の内容に興味がある
- ・「へえ、こいつはつまらないな」→くりや松たけを置いているのは自分だと気付いてほしい
- ・想像→友だちになりたい？

## 3 本時のまとめ

(課題3) 「ごんはどんなきつねか？」(物語全体を通じた課題)

※ノートに書く→ノート回収

- ・根はやさしいきつね
- ・兵十を思いやっているきつね
- ・この段階では、かなりいいきつね
- ・兵十と友だちになりたいきつね
- ・償いに気づいてほしいきつね

次時の予告

- ごんの心情に寄り添えるように補助発問したい。「ごんになったつもりで考えてみよう」など

読) ごんの気持ちに寄り添い、叙述に即し、想像をふくらませて読む。 【ノート】

C: 自分の意見に理由が持てない

B: 自分の意見に理由が持てる

A: 交流や発表を通じて、叙述に基づいた想像を膨らませたり、理由を増したりすることができる

- 全体発表の前に、ペア交流をする。

- 指定されたスペースに書く  
(単元初頭で下スペースに線を引いておき、所定の課題を書いていけるようにした)


(1) これまでの学習の流れ

9/15 グループ読みを経て、全体読みの課題決定

- ・ごんがいたずらを繰り返すのどうしてか？
- ・(いたずら者のごんが) 今回だけは反省しているのはどうしてか？
- ・兵十と加助の後をついていくのはどうしてか？
- ・「引き合わない」のに償いを続けるのはどうしてか？
- ・撃たれたごんは、どんな気持ち？

9/16 全体読み①：「ごんがいたずらをくりかえすのはどうしてか？」意見は座席表参照

9/17 全体読み②：「死んだのは兵十のお母だ」のときのごんの心境は？

(2) 本時目標

叙述や情景描写をもとに、想像しながら読み、個々の感じ取った内容を交流することを通して、いたずらをやめ、償う気持ちになるごんの心情を読みとることができる。

(3) 本時展開(10/13)

学 習 活 動	●指導上の留意点と評価
<p><u>1 前時の振り返り</u>                      ・第二場面・第三場面前半の一人読み</p> <p><u>2 全体解決</u>                      課題「(いたずら者のごんが) 今回だけは反省しているのはどうしてか？」                      ※ノートに考えを書く→交流→全体発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんのせいでお母が死んだ→叙述はない。</li> <li>・お母に尽くそうとする兵十のじゃまをしてしまった→「わしがいたずらをして、うなぎをとってきてしまった」</li> <li>・本当は仲良くしたい、かまってほしいだけなのに、傷つけてしまった→前課題より、いたずらをするのは、かまったらほしいから</li> <li>・兵十が自分と同じ境遇だから、辛さが分かる→「おれと同じ、一人ぼっちの兵十か」</li> </ul> <p><u>3 本時のまとめ</u>                      (課題3)「ごんはどんなきつねか？」(物語全体を通じた課題                      ※ノートに書く→ノート回収                      ・やっぱり根はやさしいきつね                      ・いたずらを後悔するきつね                      ・いいきつねに変化した                      ・兵十の辛さが分かるきつね</p>	<p>●これまでの物語の流れを想起させる。                      一人ぼっちのごんは、いたずらをくりかえしている(子どもの読みでは、一人ぼっちでかまってほしいから)。軽い気持ちでやったいたずらで、兵十が母親に食べさせるはずだったうなぎを奪ってしまう。ごんは、兵十の母親の葬式を目撃して、心が揺れ動いていく。</p> <p>●「兵十に悪いことをしたから」「母親の死にかかわったから」という考えから、自分と同じ境遇の「一人ぼっち」になってしまったことに結び付けたい。一人ぼっちの辛さを知ってるが故に、同じ一人ぼっちになった兵十の辛さが分かる</p> <p>●ごんの心情に寄り添えるように補助発問したい。                      「今回のいたずらは、今までと何が違う？」など</p> <p>読) ごんの気持ちに寄り添い、叙述に即し、想像をふくらませて読む。 【ノート】</p> <p>C: 自分の意見に理由が持てない                      B: 自分の意見に理由が持てる                      A: 交流や発表を通じて、叙述に基づいた想像を膨らませたり、理由を増したりすることができる</p> <p>●一人考え(ノート)→終わった児童から、座席フリーのペア交流→B隊形→近所交流→全体発表</p> <p>●机間指導をし座席表に児童の考えを記入する</p> <p>●指定されたスペースに書く                      (単元初頭で下スペースに線を引いておき、所定の課題を書いていけるようにした)</p> <div data-bbox="1267 1715 1474 1850" style="border: 1px solid black; width: 130px; height: 60px; margin-left: auto; margin-right: auto;"></div>

## 6 実践を終えて

### ●単元の流れについて

基本的に読み深めるための課題を子どもから出させたいと考えてきた。初発の感想を書いたりサイドラインを引いたりしながら、主人公の心情にせまる課題を設定していった。その際は、教師側として、読み深めるうえで外したくない課題をいくつか用意した。子どもが課題と課題を設定する際に、それが出ない場合は、教師よりの課題として提示した。それらの課題から、子どもが、ストーリーに大きく関わると考える課題については、全体で書いたり意見交換したりしながら、考えを変えたり、深めたり、共感したりしていった。

- ①初発の感想を書く・・・児童の感想と大まかな課題を把握
- ②一人読み、サイドライン引き＋コメント書き込み  
サイドラインを引く視点 ・心が動いた、よく分からない、その他
- ③グループ読み・・・サイドラインを引いた箇所の、共感及び解決
- ④全体読み課題の決定・・・グループ読みで、多くが心が動いたところ 及び解決できなかったところ  
及び、教師が外したくない課題
- ④全体読み・・・全体課題の読み深め

本時、計画では、「ごんはなぜ、兵十・加助についていったのか？」の課題を扱う予定であったが、この課題に至るには、もうワンステップ必要であると判断したため、ひとつ前の課題を扱うこととなった。

### ●本時の課題について

課題は、子どもたちと共に設定してきた。自分たちが設定することにより、子どもたちにとっての「切実感」を高めたかった。確かに、一部の児童にとっては「真剣に考えたい」「なんとか心情を知りたい」課題であったようだ。しかし、全ての児童にとってそうであったかという疑問が残る。単元目標、教師の想い、児童の想いが調和した課題を設定するためには、よりの確に児童の想いを把握するとともに、教師サイドとして読み深めたい一文の精選をしていく必要があるように感じた。

### ●成果と課題

本時では、「ごんが、今回に限って反省をしているのはなぜか」という点に注目し、ずっと一人ぼっちであるが故に、同じ境遇になった兵十に気持ちが傾くごんの心情を読み取りたかった。

一人読み、グループ読み、全体読みと、徐々に意見交換の範囲を広げながら課題を精選しながら、同時に多くの友だちの考えに触れ、自分の考えが変わったり、自信を持ったり、深まったりする過程をひびき合いと捉えてきた。全体読みの場面は、小グループ読みを経て、ある程度精選された意見を交える場であり、ひびき合いの場面としてウェイトを置いてきた。

一年間の研究を通じて、ひびき合うためには、「共通の土壌」と「自分の意見へのこだわり」が必要ではないかと感じている。

今回の授業において、「共通の土壌」とは、難解語句、難読漢字の理解に始まり、時代・場所・登場人物の大まかな人となりの把握、主人公と同化することなどが考えられる。これらは、一人読み、グループ読みの過程で、ある程度高められたように思う。一方「自分の意見へのこだわり」を引き出すためには、豊かな想像力が必要となる。叙述に即しながら、豊かに想像する。その姿を引き出したい。また同時に、登場人物の心情の変化を一言にこだわりながら論理的に読ませることや、物語の内容に応じて、手立てを工夫することなどが、今後の課題となるように思う。